

講評

出題の意図

高等学校の日本史探究の授業の内容がきちんと理解できているかどうかを判断することを目的としていますので、設問は日本史探究の基礎となる知識を問うことを重視しています。したがって、高等学校で使用される「日本史探究」の教科書を中心とし、授業で使用する用語集や史料集、図説などからも出題します。

出題範囲について、時代では古代～近現代まで、分野では政治・外交・社会経済・文化など、すべての範囲から出題します。学習法は、まずは教科書をしっかり読むようにしましょう。また、その際、単に用語や年代を覚えるのではなく、歴史の因果関係や時代背景などと関連させておさえるようにしましょう。また、史料や地図の出題もあります。普段から史資料集を傍らに置き、史料が表している内容や歴史事項の地理的要素などもしっかり確認しておきましょう。

出題形式は、空欄語句の補充、語句の組合せ・選択、年代整理問題はもちろん、文章の正誤判定問題も出題します。

基本的な知識をおさえたうえで、過去の入試問題にも取り組んでおきましょう。

出題内容・解説

2025年度一般入試B日程の日本史科目は、平均点が2月2日は59.0点、2月3日が61.1点という結果で、2日間の平均点は60.1点でした。2日間の平均点格差は2.1です。

日本史科目の問題は、高等学校における日本史の授業内容をきちんと理解しているかを重要視し、出題内容は平均点60点をひとつの目安にしています。その観点で考えると、2日間の平均点が60点台をキープし、両試験日の格差も2.1でしたので、目標は達したと考えます。

今年度入試内容の難易度は例年と変わりませんので、本学の入試問題の内容は教科書の内容が中心です。しっかりと教科書を中心に学習すれば、おのずと得点はとれるといえます。とりわけ、教科書の脚注や図表、史料などへの学習と理解も必要であるのは従来どおりです。その時代の歴史の流れや個人の事績、文化財などをきちんと理解していれば、正誤組み合わせ問題や適切な組み合わせ問題を取りこぼすことはないでしょうし、高得点が狙える問題が多いといえます。この点が合否に大きく関わっていく、と考えます。

今回の入試においても、1日ごと、2日間を通じての誤答傾向に関しては、いくつかの傾向がありますので、誤答の傾向などを考えていきましょう。

まず1点目は、今年は2日間通じて、正誤組み合わせ問題、語句組み合わせ問題の正答率が低い傾向にあることです。この傾向は昨年度以上に顕著です。どの時代の正誤組み合わせ問題も正答率がかんばしくなく、十分な読解ができていないことによって生じる誤答や、選択肢が集中しているのではなく誤答が散らばるといった傾向が見受けられます。とりわけ、近現代史の正誤組み合わせ問題は正答率が低い傾向が見出せます。

こういった傾向は昨年度も同じでしたが、例年、近現代を扱う問題、分野別の問題は、他の時代や分野と比べると正答率が下がる傾向にあります。具体的には平均点が30%半ばから40%台を推移する傾向があります。これは教科書を中心とした学習が追いついていないのでは、と考えます。つまり、この問題領域で正答を積み上げることができるか否かが、合否を左右するともいえます。

2点目は史料を読解したうえでの正誤組み合わせ問題や用語組み合わせ問題の正答率が伸びていないという特徴があります。これは用語などを暗記するだけでは正答を導き出せず、読解力や思考力が問われます。これらの問題の正答率をあげると得点率があがるといえましょう。教科書と史料集を照合しながらの学びが効果的と考えます。

3点目は、1日目、2日目ともに平均点が低いのですが、近現代史の政治史に関わる問題のうち、正誤組み合わせ問題などで正答率が伸びていない傾向にあります。繰り返しになりますが、この分野の問題で正答率を伸ばすことが合格するために、とても重要といえましょう。この分野は短期間で政策や条約ができるなど、その推移が動きます。こういった点が理解できていないと正答できないと考えます。政策や条約名と年代、関係した人物、内容、背景などを理解するようにすることで、正答率が上がるものと考えます。

正答率をみると、人物の組み合わせ問題や人物と正しい歴史的説明などを組み合わせる問題などは、2日間を通じ、80%以上の正答を得ています。換言すれば、こういった問題を取りこぼすと合否に関わるものだといえましょう。

総括すると、今年度入試では正誤組み合わせ問題、適切な組み合わせ問題に関して正答率が低く、この種の取りこぼしが合否に大きく影響するといつて過言ではないでしょう。これらの問題は、しっかりと、歴史事象の発生した年代とその説明が的確に判断できる知識を養っているかが問われるといえます。すなわち、最も適当であるものを選択する問題、適切な組み合わせ選択問題、さらに、正誤組み合わせ問題に対し、いかに正答を導き出すかが高得点へのカギといえるのです。

本学の日本史の入試問題は大問4題のうち、ひとつは分野別の問題が出題されます。分野別の問題においても正答率が低いのは毎年の傾向です。たびたび出題される内容ですから、過去問を参照してほしいと思います。とくに、文化史などは学校で使用している図録類を利用すると理解しやすくなるといえます。全体として、教科書本文はもとより、注記欄を含めた学習の深度、あるいは教科書掲載の図表への目配せができていないか、が正答・誤答の分かれ目になったのではと考えます。正しく確実な知識をもって、選択肢の文章が何を問い、用語(地名・人名も含めて)のどの点がおかしいのか、丁寧かつ的

確に判断できるかが得点率アップに関わるといえます。

こういった点を克服するためには、正確な年代と関連人物、作品や政策の内容をきちんと把握しているかがポイントであり、そのうえで選択肢の文章をしっかりと読解する力が必要で、そういった力を判断される問題であったといえます。

学習のポイント・アドバイス

日本史科目、とりわけ、解答方法がマークシート方式だと、学習の力点がどうしても事項や人物名の暗記となるが多くなるでしょう。これは今年度入試の正答率をみてもそうですが、人物を問う穴埋め問題や基本的事項を問うような問題は正答率もよく、取りこぼしはないといえます。

しかし、本学の入試における日本史問題に関しては、事項の年代や人名や地名などを問うだけでなく、問題文や史料にそって、基本的事項や正誤組み合わせ問題、年代順選択問題、最も適切な文章などを選択させる問題が多いといえます。ということは、問題文の一部をうけて、年代をしっかりとおさえ、それに関連する事項を問う問題をいかに得点していくかが、高得点への道といえます。また、その時代の代表的な史料には目を通しておいていただきたいと考えます。

加えて、思考力を問うという意味で、史料読解による問題やグラフや地図から読み解く問題もあります。史料読解から歴史事象を導き出し、そのうえで適切な回答を選択しなければなりません。

上記の点から、着実に得点していくには、暗記に力点を置くのも大切ですが、単語としての暗記ではなく、事項の年代と背景を十分に理解したうえで、的確に、しっかりと覚えていくことだといえます。正誤問題や並べ替えの問題は、うろ覚えな知識やあやふやな理解では正解にたどり着けません。教科書をまんべんなく、しっかりと学習してください。とりわけ、近代の箇所は精読することをお勧めします。さらに、問題文をしっかりと読むことも重要です。

具体的にいえば、その事項と年代、関連人物、内容、成立した背景などを、史料集の史料とも照合しながら、あるいは教科書の注記、表・図などもしっかりと確認し、きちんと、的確に理解することが必要です。とくに、地図と地名・歴史事項の関連性は学習していただきたいと思います。教科書掲載の地図は必ず確認しておきましょう。その地図の意味や街の位置などを正確に理解しておきましょう。さらに、グラフを読み解き、それにもとづいた解答ができる力を養っていただきたいと考えます。

そのための学習方法としては、まずは、教科書をしっかりと丁寧に読むことです。それに加え、教科書本文だけでなく、注記欄や掲載史料、掲載地図、掲載図版なども必ず目を通しましょう。今年度入試の平均点が下がった要因は、注記欄や掲載史料、掲載地図、掲載図版などを軸に出題された問題を取りこぼしているから、といえます。教科書に掲載されている意味を考え、地図ならば、あげられている地名とその位置を、図では何が描かれ、それはどういった歴史事象の説明であるのか、表は誰が何を著したのか、あるいは誰がどこに何を設けたか、などをしっかりと丹念に学習していただきたいと思います。いわば、時間軸と空間軸を把握する学習の必要性があります。そのうえで、用語集や史料集にあたり、関連事項なども把握するようにしてください。

また、教科書をよく読んだあとに、ノートにそれを図化してみる、自分の言葉でまとめてみる、というのも効果的です。その際、先ほど述べた授業で用いる用語集や史料集も必ず確認し、事項説明などを加味していけば、全体の理解が深まり、得点アップにつながると思います。そのうえで、文章が何を問っているのか、という文章読解にも気を付けてほしいと思います。問題文を読み、各問いがどういった内容なのか、どういった解答を求めているのかを、理解してほしいと思います。

最期に、教科書をしっかりと読みこむことをし、日本史の流れをしっかりとつかんだうえで、宗教史、文化史、対外交流史、社会経済史といったような部門史別に、内容をまとめておく、という学習も大変効果的であろうと考えます。

解答例 (一般選抜(B日程)・日本史)

2月2日

選択-1

I	II	III	IV
ア ②	ア ④	ア ①	ア ④
イ ①	イ ②	イ ③	イ ①
ウ ③	ウ ②	ウ ④	ウ ③
エ ⑤	エ ②	エ ④	エ ④
オ ②	オ ④	オ ④	オ ①
カ ④	カ ③	カ ①	カ ①
キ ④	キ ①	キ ②	キ ①
ク ②	ク ②	ク ④	ク ④
ケ ④	ケ ②	ケ ④	ケ ①
コ ③	コ ②	コ ③	コ ③
サ ②	サ ②	サ ③	サ ②

2月3日

選択-2

I	II	III	IV
ア ②	ア ③	ア ①	ア ②
イ ②	イ ①	イ ④	イ ③
ウ ①	ウ ③	ウ ②	ウ ②
エ ②	エ ①	エ ⑤	エ ④
オ ②	オ ④	オ ③	オ ③
カ ①	カ ②	カ ②	カ ③
キ ④	キ ③	キ ①	キ ①
ク ①	ク ④	ク ④	ク ③
ケ ①	ケ ③	ケ ②	ケ ④
コ ③	コ ②	コ ①	コ ②
サ ④	サ ①	サ ②	サ ①

講評

出題の意図

高等学校の世界史探究の授業内容をきちんと理解できているかどうかを判断することを目的としています。そのため、設問は世界史探究の基礎知識を問うことを重視しています。出題の中心は高等学校で使用される「世界史探究」の教科書ですが、授業で使用される用語集や図説などからも出題します。

出題範囲は、時代では古代～現代まで、地域では欧米史・東アジア史（主に中国史）が中心になっています。分野は、政治史の出題を中心に、文化史や社会経済史も出題します。ただし、戦後史や周辺地域の歴史についても出題することがありますので、時代・地域・分野において偏りのない学習を心掛けましょう。

出題形式については、空欄語句の補充、語句の選択や組合せ、文章の正誤判定問題、年代整序に加え、地図を用いた設問も出題します。

世界史の基本的事象を中心とした出題内容ですので、まずは教科書を最後まで丁寧に読みましょう。ただし、歴史用語の暗記にとどまるのではなく、歴史の流れのなかで歴史事象を確認し、理解することを心がけてください。また、教科書・図説などに掲載されている地図を確認して、世界史における地理的感覚も養っておくとよいでしょう。

出題内容・解説

全体として古代のイラン（「2月2日」Ⅰ）やイギリスの女性君主をめぐる歴史（「2月2日」Ⅲ）、近現代のドイツ（「2月3日」Ⅳ）、に関する問題については、正答率が高く十分に理解できているようです。例年と同じく、古代インド、近世ヨーロッパについては、時代を問わずよく理解できているようです。ですが、2025年度入試では、中国史（「2月2日」Ⅱ、「2月3日」Ⅳ）については一部に正答率が低い傾向にありました。2025年度入試は、例年とは異なり、全体的に比較的正答率が低い傾向にありました。

2025年度入試の傾向として、中国史の分野で異民族に関する問題（「2月2日」Ⅱ問1、問2）や、明清時代に関する問題（「2月3日」Ⅳ問6～7）の正答率が低い傾向にありました。

出題形式からみると、正誤の組み合わせ問題の正答率が下がっていました（「2月2日」Ⅱ問1、「2月3日」Ⅱ問4）。歴史の順序を問う問題は、例年どおり、正答率が低い傾向にありました（「2月3日」Ⅳ問6）。また2025年度からは、思考力・判断力を問う問題（「2月2日」Ⅰ問7、Ⅲ問4、「2月3日」Ⅰ問7、Ⅱ問7）が新たに設けられましたが、おおむね対応できているようです。

学習のポイント・アドバイス

世界史では時間の流れと、出来事が地図の上のどこで起こったかを理解することがもっとも大事です。教科書の文章だけで学習するのではなく、挿入されている地図や写真・注記、また別冊の年表と地図それに資料集も一緒に机の上に並べて学習することがポイントです。また、歴史上の都市の名前と、現在の名前が異なることも多いので、教科書に載っている地図や地図集などでよく確認しておくことが大事です。条約などは、それが締結された都市の場所と、条約の内容に含まれる場所、また締結した王・人物は誰なのか、などをしっかり地図・資料集などで確認して、自分なりにノートに整理しておきましょう。

例年では、中国史や古代オリエント・ギリシア、中世・近世ヨーロッパの問題については正答率が高いので、取りこぼしをしないように、しっかり学習しておきましょう。正誤の組み合わせ問題や、事柄・出来事の組み合わせに苦戦している受験生がやはり多い傾向にあります。正答かどうかの判断点が複数あるので、教科書を丁寧に読んで条約や出来事の区別をして、しっかりと理解しておきましょう。またトピック問題に関しては、独自に年表やまとめをノートに書いておくとよいです。中国やイスラームの王朝ごとの皇帝・王や世界の大統領ごとに順序立てて、その事績をまとめておくとよいでしょう。これは思考力・判断力を問う問題にも有効です。近現代史のうち、とくにアフリカ・中東・東南アジアの分野を苦手とする受験生も多い傾向にありますので、教科書の最後までよく勉強しておきましょう。

文化史の分野については、どの地域のどの時代の人物・作品であったのかを、教科書や資料集でしっかりと確認しておくといよいでしょう。

基本となる教材は教科書です。最初から近現代の最後まで、注も含めてしっかりよく読み、地図や年表を見比べて、正確な知識を身につけてください。そして受験の当日は、落ち着いてゆっくり問題文を読み、解答するように心がけてください。

解答例（一般選抜(B日程)・世界史)

2月2日

選択-1

I		II		III		IV	
ア	②	ア	③	ア	④	ア	②
イ	④	イ	①	イ	③	イ	①
ウ	③	ウ	①	ウ	②	ウ	④
エ	②	エ	②	エ	②	エ	②
オ	①	オ	③	オ	①	オ	④
カ	③	カ	①	カ	④	カ	③
キ	④	キ	④	キ	②	キ	①
ク	④	ク	②	ク	①	ク	①
ケ	①	ケ	④	ケ	③	ケ	③

2月3日

選択-2

I		II		III		IV	
ア	③	ア	④	ア	①	ア	②
イ	②	イ	①	イ	②	イ	④
ウ	④	ウ	②	ウ	③	ウ	②
エ	①	エ	②	エ	③	エ	①
オ	①	オ	③	オ	②	オ	③
カ	③	カ	④	カ	④	カ	④
キ	②	キ	①	キ	③	キ	①
ク	④	ク	④	ク	④	ク	③
ケ	①	ケ	③	ケ	①	ケ	②

講評

出題の意図

高等学校の授業で学習する公共および政治・経済が理解できているかどうかを判断することを目的とし、公共と政治・経済に共通する基礎的事項を出題しています。

出題分野は、「政治」「経済」「国際」の3分野です。いずれの分野とも幅広く出題しますので、特定の分野に偏ることなく教科書や資料集などを使って丁寧に学習しておくことが大切です。また、教科書外の内容としては、時事的な内容を出題することがあります。世界や日本でどのようなことが起きているのか、その背景にはどのような問題があるのかなどを問います。日頃から、新聞やテレビの報道で最新の動きに関心をもつように心がけるとよいでしょう。

出題形式は、空欄語句の補充、語句の選択、文章の正誤判定問題、組合せ問題、資料を用いた読解問題など一般的な形式で出題します。基本的な知識をおさえたうえで、過去の入試問題に取り組んでおきましょう。

出題内容・解説

「2月2日」Ⅲは、民主政治の制度に関する問題でしたが、大半の問題にあって正答率が6～8割に達しており、受験生にとって得点源の分野となっています。明暗が分かれたのは問3（正答率42%）と問6（同38%）でした。問3ですが、ワイマール憲法といえは20世紀的な「新しい人権」＝「社会権」を初めて規定したものとして有名です。正解は③でしたが、4割近い受験生が近代的な人権思想の内容である④を選択していました。問6では直接請求制度の知識が問われましたが、議会解散の請求先を51%の受験生が①（首長）と回答していました（正解は②の選挙管理委員会）。いずれも基本的な知識であり、手堅く抑えておきたいところです。

「2月3日」Ⅰでは、環境問題と、これに対する日本政府や国際社会の取り組みが題材とされていました。問6と問8はいずれも「誤っているもの」を選ぶ、という問題だったのですが、ともに正答率は25%という低いものでした。問6にあっては、水俣の地名を冠した「水俣条約」の存在を知らなかった受験生が多数（53%）いました。また、問8にあっては「グリーン購入法」が再生品の購入を求めている対象が政府であることが7割近い受験生に理解されていませんでした。環境の分野は、情報や消費などの分野と並んで、時事問題の頻出分野です。日頃から日々のニュースにも注意を払いましょう。

学習のポイント・アドバイス

「公共、政治・経済」という科目は、憲法を筆頭格に、基本的には変わることのないベーシックな知識を問う問題群と、時事問題を対象とする問題群という2つの系統からの出題に大別されます。後者に関しては、今年度もGX（グリーン・トランスフォーメーション）やハマスによるイスラエル攻撃などが問題のなかで扱われています。

後者への対策としては、日頃から国内外の社会問題に関心を持つことですが、アドバイスとしては、特に新聞を読むことをあげておきます。時事問題に関する知識自体はインターネットからも得られそうですが、ネットニュースを提供するプラットフォームにはユーザーが好む分野の情報を優先して提供する傾向があり（いわゆる「フィルターバブル」）、その結果興味を持たない分野の知識に空白が生まれがちです。政治、経済はもちろんのこと、国際、環境、科学技術… 幅広い分野を網羅する新聞の継続的な講読をおススメします。

前者の問題群については、憲法の条文からは必ずといっていいほど出題されています。日頃から条文に親しんでおきましょう。この分野からの出題では、正確な理解さえあれば容易に失点を防ぐことができます。知識を確かなものにするため、たとえば憲法の条文などは繰り返し目を通して頭に入れるように努めましょう。

解答例（一般選抜(B日程)・公共、政治・経済)

2月2日

2月3日

選択-1

選択-2

I		II		III		IV		I		II		III		IV	
ア	①	ア	③	ア	②	ア	③	ア	②	ア	③	ア	①	ア	④
イ	③	イ	④	イ	④	イ	②	イ	②	イ	①	イ	②	イ	①
ウ	⑤	ウ	④	ウ	③	ウ	④	ウ	④	ウ	③	ウ	③	ウ	⑤
エ	②	エ	②	エ	①	エ	②	エ	③	エ	③	エ	②	エ	②
オ	③	オ	③	オ	③	オ	④	オ	①	オ	④	オ	①	オ	③
カ	④	カ	②	カ	②	カ	⑤	カ	①	カ	①	カ	②	カ	③
キ	③	キ	①	キ	③	キ	③	キ	②	キ	①	キ	④	キ	①
ク	①	ク	③	ク	③	ク	②	ク	③	ク	⑥	ク	③	ク	②
ケ	③	ケ	①	ケ	④	ケ	②	ケ	④	ケ	④	ケ	①	ケ	①
コ	④	コ	⑤	コ	②	コ	④	コ	③	コ	④	コ	②	コ	④

講評

出題の意図

高等学校で学習した内容を正しく理解できているかどうか、さらにそれらを活用できるかどうかを確認します。出題範囲の各単元から幅広く、基礎的な問題と応用力が必要な問題を出題します。さまざまな定理や公式を確実に理解するとともに、意味や考え方を大切に、それらを適切に使えるように練習を十分に積んでおいて下さい。また、題意を正確に把握する力と確かな計算力も求められます。

出題範囲は、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A（「数学と人間の活動」を除く）、数学B（数列）、数学C（ベクトル）とし、主に、以下の内容を確認する問いを出題します。

- ①さまざまな定理や公式の理解
- ②問題に対して定理や公式を適用する力
- ③題意を把握し、問題を整理する力
- ④確かな計算力

解答方法は、選択肢から答えを選ぶものではなく、解答欄の形式に合わせて数字や記号を当てはめていく方法です。

出題内容・解説

全体に渡って標準的な問題が出題されました。各単元において、基本的な事柄の理解を問う問題では正答率が概ね高い結果となりました。正答率の低かった問題の中で、解けるようになってもらいたい問題を以下に挙げますので、学習の参考にして下さい。

(1) 「数と式」

正答率の高い結果となりました。絶対値が含まれている方程式を解く問題で正答率がやや低い結果となりました。

「2月3日」Ⅰ [1] (2) : 絶対値が含まれている方程式を解く問題

(2) 「集合と命題」

集合の包含関係についての理解を問う問題で正答率が低い結果となりました。

「2月2日」Ⅰ [1] (3) : 集合の包含関係についての理解を問う問題

(3) 「2次関数」

文字変数が含まれる場合の最大値/最小値を問う問題では正答率がやや低い結果となりました。

「2月3日」Ⅰ [2] (2) : 文字変数が含まれる場合の最大値/最小値に関する理解を問う問題

(4) 「図形と計量」「図形の性質」

複数の条件を正しく読み取り、それらを組み合わせて解いていく複合的な問題では正答率が低い結果となりました。

「2月3日」Ⅱ (2) : メネラウスの定理とチェバの定理を活用して面積比を求める問題

(5) 「データの分析」

概ね正答率の高い結果となりました。四分位範囲についての理解を問う問題では正答率がやや低い結果となりました。

「2月2日」Ⅰ [2] (1) : 四分位範囲の理解を問う問題

(6) 「場合の数と確率」

条件を正しく切り分ける必要があるもの、また、条件付き確率を求める問題で正答率が低い結果となりました。

「2月2日」Ⅱ (3) : 条件付き確率を求める問題

(7) 「複素数と方程式」

概ね正答率の高い結果となりました。解と係数の関係を用いる問題では正答率がやや低い結果となりました。

「2月2日」Ⅲ (3) : 解と係数の関係を用いて解いていく問題

(8) 「微分法と積分法」

概ね正答率の高い結果となりました。グラフで囲まれた部分の面積の最小値を求める問題では正答率が低い結果となりました。

「2月3日」Ⅲ (3) : 面積の最小値を求める問題

(9) 「数列」

概ね正答率の高い結果となりました。群数列を扱う問題では正答率が低い結果となりました。

「2月2日」Ⅳ (3) : 群数列の理解を問う問題

(10)「平面上のベクトル」

ベクトルの内積についての理解を問う問題や、ベクトルの相互関係についての理解を問う問題では、正答率が低い結果となりました。

「2月3日」Ⅳ (3) : ベクトルの相互関係についての理解を問う問題

学習のポイント・アドバイス

各単元における基礎的な問題を解くことができることはもちろん、やや発展的な問題にも対処できる力が必要です。公式や解法パターンの暗記にとどまらないように、意味や考え方を大切にしてください。粘り強く問題に取り組む姿勢と、確かな計算力も大切です。

解答例 (一般選抜(B日程)・数学)

2月2日				2月3日			
選択-1				選択-2			
I	II	III	IV	I	II	III	IV
ア 1	ア 1	ア 6	ア 7	ア 2	ア 1	ア -	ア 1
イ 3	イ 1	イ 1	イ 5	イ 3	イ 4	イ 4	イ 5
ウ 1	ウ 5	ウ 6	ウ 7	ウ 1	ウ 3	ウ -	ウ 4
エ 2	エ 2	エ 6	エ 3	エ 4	エ 1	エ 2	エ 5
オ 8	オ 1	オ 1	オ 4	オ -	オ 6	オ 3	オ -
カ -	カ 5	カ 5	カ 7	カ 8	カ 3	カ 1	カ 5
キ 2	キ 7	キ 1	キ 1	キ 3	キ 3	キ 3	キ 2
ク 3	ク 4	ク 1	ク 5	ク -	ク 5	ク 2	ク 1
ケ 0	ケ 5	ケ 1	ケ 1	ケ 4	ケ 3	ケ 2	ケ 0
コ 1	コ 2	コ 5	コ 0	コ 2	コ 7	コ 4	コ 2
サ -	サ 1	サ 6	サ 1	サ 2	サ 3	サ 1	サ 3
シ 1	シ 5	シ 1	シ 3	シ 4	シ 5	シ 4	シ 3
ス 3	ス 7	ス 5	ス 2	ス 9	ス 2	ス 1	ス 5
セ 5	セ 2	セ 3		セ 4	セ 3	セ 2	セ -
ソ 4	ソ 7	ソ 5			ソ 1	ソ 2	ソ 1
タ 2	タ 4	タ 4			タ 4	タ 3	タ 5
チ 9	チ 7				チ 6	チ 2	チ 2
ツ 5					ツ 5	ツ 3	ツ 5
テ 0					テ 3	テ 8	
ト 1					ト 2	ト 2	
ナ 4					ナ 3	ナ 7	
ニ 0							

講評

出題の意図

高等学校の生物基礎および生物の教科書で扱われている内容を、正確に理解できているかどうかを問います。また、問題文や図、グラフなどの読み取りをもとにした、応用力や考察力を問います。

知識問題では、教科書に記載のある用語や、図が表す内容について幅広く問います。教科書の本文だけでなく、図の理解も重要ですので、あわせて丁寧に理解しておくことが大切です。特に、文章選択問題では、正誤の判断に正確な知識が求められます。まずは教科書に太字で記載されている用語を中心にもれなく覚えていき、次に関連した事項に留意して理解していきましょう。関連した事項を比較・整理しながら、類似点や相違点をまとめていくことがポイントです。

考察問題では、見慣れない題材も扱われるため、問題文や図、グラフなどの読み取りで差がつきやすくなります。考察問題の対策としては、問題演習を数多くこなし、読み取り方や考え方を習得しておくことが必要です。特に、実験を扱った考察問題の演習では、単に解答するだけでなく、実験の方法や得られた実験データからわかることについて、理解を深めておくといでしょう。

出題内容・解説

問題は2日間ともⅠ～Ⅳの4つの大問よりなり、Ⅰは全分野から出題された集合問題、Ⅱは主に生物の特徴、遺伝子とその働き、体内環境維持に関連した問題、Ⅲは主に細胞と分子、発生と遺伝制御、Ⅳは主に生物の環境応答と関連する問題の構成です。

各試験日における平均点は「2月2日」が48.7点、「2月3日」が59.8点でした。

それぞれの試験日の正答率が低かった問題（正答率30%以下）について解説しますので、学習の参考にして下さい。

「2月2日」

Ⅰ－問7：日本の森林（照葉樹林）は、高木層から地表層までは高い方から低い方にむかって高木層、亜高木層、低木層、草本層、地表層の5層構造を示します。また、5層の解答肢の中で、アオキは低木層、ヤシヤブシは亜高木層の樹木、スタジイは高木層の樹木ですが、解答肢ではスタジイは幼木とされており、従って、この設問において「もっとも」低木層に成育していないのはヤシヤブシであり、正解は③の「5層、ヤシヤブシ」となります。

Ⅱ－問7：副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン、副腎皮質刺激ホルモンの分泌量の変化を問う問題で、ホルモンのネガティブ（負の）フィードバック制御を問う問題です。脳下垂体前葉の機能が低下すると副腎皮質刺激ホルモンの分泌が減少します。この結果、糖質コルチコイド（グルココルチコイド）の分泌が低下します。このことを感知した脳の視床下部では、それを回復させようと、副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモンの分泌を高めようと働きます。従って正解は②となります。

Ⅲ－問4：小胞が細胞膜と結合すると、小胞の内部（内側）が細胞膜の外側を向くこととなります。Yの小胞の図では受容体の結合部位が内側にあり、細胞膜と結合し膜の外側を向き、細胞膜の外側から接触するホルモンと結合できるようになります。従って題意に沿う正解は③のYのエクソサイトーシスとなります。

Ⅳ－問7：第1卵割（2細胞期）、第2卵割（4細胞期）は等割で経割を示し、第3卵割（8細胞期）は緯割を起こします。また、動物細胞の割球のほうが植物細胞の割球よりも小さいので、正解は③となります。

Ⅳ－問1：図1はヒトの運動ニューロン、図2はヒトの感覚ニューロンの図です。従って正解は①となります。図は髄鞘を有する神経線維が描かれていますが、イカの神経細胞は無髄（髄鞘がない）なので、ヒトとイカの見分けがつかず。図1は運動ニューロンに観られる多極性ニューロン、図2は感覚ニューロンに観られる疑単極性ニューロンの形状を示しています。

Ⅳ－問8：実験7は根を水平においてすぐに根の先端の下半分を除去したら、それより上方の根が上方に向かって成長しはじめたと考えることができますので、正解は④となります。

Ⅳ－問9：問8の結果（実験7が理解出来れば、そのことがヒントとなって、①が正解であることが導き出されます。）

「2月3日」

Ⅱ－問2：細胞が体積を増す時期はG₁期、細胞体積当たりの核のDNA量の比率が最も小さいのもG₁期です。従って正解は①となります。

Ⅱ－問3：3回分裂した時には（その前に分裂した時に分化した細胞（灰色）が2つすでにあり、3回目の分裂で1つはすぐに分化する（灰色）ので、分裂を続ける細胞は1つ（白色）、分化した細胞（灰色）は3つとなります。従って1：3

となり正解は⑤となります。

Ⅱ－問4：配偶子では減数分裂によって染色体は $2n$ から n になっています。従ってゲノムサイズが3億塩基対ということは減数分裂前の $2n$ の状態では6億塩基対ということになります。体細胞分裂のS期においてDNA量が倍増し、M期中期ではDNA量の変化はないので、6億塩基対 $\times 2$ という計算から12億塩基対、正解は④となります。

Ⅲ－問10：Ⅰは問9より、「RNAポリメラーゼ」であることが導き出されています。RNAポリメラーゼは複雑な構造をした酵素タンパク質で、複数の遺伝子発現を調節するので、正解は④となります。

Ⅳ－問1：1日における連続暗期が限界暗期よりも長くなった時に花芽形成に至る植物は、すなわち「短日植物」を指します。設問に示された植物の中で短日植物にあたるのは、アオウキクサ、アカザ、アサガオ、イネ、オナモミ、キク、コスモス、シソ、ダイズといった植物である。選択肢の中で、これらを2つ含むのは⑤（オナモミ、イネ）となり、これが正解となります。

Ⅳ－問8：ミツバチの8の字ダンスの行動の問題で、有名かつ基本的な問題です。実験2の文章を正しく理解すれば、(e)に示された条件では、正しくえさ場の方へ飛んで行きます。(f)に示された条件では、正しくえさ場の方へ飛んで行きます。しかし、(g)に示された条件では、正しくえさ場の方へ飛んで行きません。従って、正解は②となります。

Ⅳ－問9：実験2において、近くのなかまのミツバチが受容して、えさ場の方向を容易に認識出来る感覚は触覚です。従って、正解は④となります。

学習のポイント・アドバイス

基礎知識となる用語や数値を単なる暗記の対象としてだけではなく、それらの示す意味を深く丁寧に理解する意識で学習し、問題の読み取りは考え方に柔軟に対応出来る力をつける努力をしましょう。また、教科書の表やグラフをよく理解することが学習に役立ちます。教科書を基盤として作問しますので、教科書をしっかり学習することが大切です。

解答例（一般選抜(B日程)・生物)

2月2日				2月3日			
選択-1				選択-2			
I	II	III	IV	I	II	III	IV
ア ④	ア ①	ア ⑤	ア ①	ア ⑤	ア ④	ア ③	ア ⑤
イ ①	イ ①	イ ②	イ ②	イ ③	イ ①	イ ③	イ ②
ウ ⑤	ウ ⑤	ウ ③	ウ ②	ウ ⑥	ウ ⑤	ウ ④	ウ ①
エ ④	エ ③	エ ③	エ ⑥	エ ④	エ ④	エ ④	エ ④
オ ⑥	オ ⑧	オ ②	オ ①	オ ②	オ ③	オ ③	オ ③
カ ④	カ ⑤	カ ③	カ ③	カ ①	カ ③	カ ⑤	カ ⑥
キ ③	キ ②	キ ③	キ ③	キ ②	キ ④	キ ①	キ ③
ク ④	ク ①	ク ④	ク ②	ク ②	ク ②	ク ②	ク ①
ケ ①		ケ ②	ケ ④	ケ ①		ケ ③	ケ ②
コ ⑤		コ ①	コ ①	コ ④		コ ④	コ ④

講評

出題の意図

高等学校で学習した内容を正しく理解できているかどうか、さらにそれらを活用できるかどうかを確認します。与えられた図やグラフ、問題文の説明などを正確に読み取る力をはじめ、考察力や応用力を問います。実験や観察も重視していますので、学校の授業でもこれらに積極的に取り組むとともに、日頃から身のまわりの化学的な事象についても興味を持って調べる姿勢をもちましょう。

出題範囲は、化学基礎、化学とします。

出題内容・解説

全体に渡って標準的な内容でした。「2月2日」「2月3日」ともに大問の内容構成は同じでした。Ⅰは小問集合形式で、化学基礎の領域から基本的な事項の理解を問う問題で、2日とも、主に「物質の構成と化学結合」から出題されました。Ⅱは化学基礎の領域から、1日目は「物質と化学反応式」「酸化還元反応」、2日目は「物質と化学反応式」「酸と塩基の反応」に関するものでした。Ⅲは無機化学の領域から、「アンモニアの性質と製法」「鉄の反応」、「ハロゲン」「銅の反応」が、それぞれの日にちで出題されました。Ⅳは有機化学の領域から、1日目は「脂肪族化合物」「芳香族化合物」、2日目は「アルコールの反応」「有機化合物の分離」からの出題でした。正答率は2日間を通して概ね高い結果でしたが、定量的な理解をみる計算を含む問題では正答率が低くなる傾向がありました。また、有機化学の領域からの問題については2日間を通して正答率が低くなりました。正答率の低かった問題で、解けるようになってもらいたい問題を挙げますので、学習の参考にして下さい。

(1) 「物質の成分と構成元素」

「2月2日」Ⅰ問1：抽出についての理解を問う問題

(2) 「化学結合」

「2月2日」Ⅰ問7：基本的な化学物質の性質についての理解を問う問題

「2月2日」Ⅰ問8：金属および合金についての理解を問う問題

「2月3日」Ⅰ問7：付加重合についての理解を問う問題

(3) 「物質と化学反応式」

「2月2日」Ⅱ(A)問4：炭酸水素ナトリウムの加熱反応についての定量的な理解を問う問題

「2月3日」Ⅱ(A)問4：大理石と塩酸の反応についての定量的な理解を問う問題

(4) 「酸化還元反応」

「2月2日」Ⅱ(B)問3：イオン反応式についての理解を問う問題

「2月2日」Ⅱ(B)問4：還元剤についての理解を問う問題

(5) 「鉄の反応」

「2月2日」Ⅲ(B)問1：鉄の反応についての定量的な理解を問う問題

「2月2日」Ⅲ(B)問4：イオン化傾向についての理解を問う問題

(6) 「銅の反応」

「2月3日」Ⅲ(B)問2：金属イオンの性質についての理解を問う問題

「2月3日」Ⅲ(B)問4：錯イオンについての理解を問う問題

(7) 「有機化合物の分離」

「2月3日」Ⅳ(B)問1：サリチル酸とフェノールについての理解を問う問題

「2月3日」Ⅳ(B)問3：有機化合物の分離に関する複合的な問題

(8) 「アルコールの反応」

「2月3日」Ⅳ(A)問4：構造異性体の理解を問う問題

(9) 「脂肪族化合物」

「2月2日」Ⅳ(A)問3：アセチレンに関する理解を問う問題

「2月2日」Ⅳ(A)問4：脂肪族炭化水素の理解を問う問題

(10) 「芳香族化合物」

「2月2日」Ⅳ (B) 問2：異性体についての理解を問う問題

「2月2日」Ⅳ (B) 問4：アルデヒドの性質についての理解を問う問題

学習のポイント・アドバイス

身の周りの「化学」に目を向けることが学習の出発点です。化学基礎領域で、理論化学の理論と方法をしっかりと学びます。教科書を最大限に活用して、単元ごとに原理や法則を正しく理解しましょう。基礎的な事柄を学んだ上で、知識の活用を意識して、演習問題などに取り組んで下さい。化学領域では、様々な物質の性質や構造に関して、体系的な理解が求められます。複数の事柄を関連付けて理解することに努めましょう。また、化学の基本は実験にありますので、いろいろな化学実験について、実験操作やその解析方法について整理して理解しましょう。

解答例 (一般選抜(B日程)・化学)

2月2日				2月3日			
選択-1				選択-2			
I	II	III	IV	I	II	III	IV
ア ⑥	ア ②	ア ⑤	ア ④	ア ④	ア ③	ア ⑤	ア ③
イ ③	イ ②	イ ②	イ ⑥	イ ②	イ ④	イ ①	イ ②
ウ ④	ウ ⑥	ウ ④	ウ ②	ウ ③	ウ ⑤	ウ ④	ウ ⑤
エ ①	エ ①	エ ②	エ ⑤	エ ④	エ ④	エ ②	エ ⑤
オ ⑧	オ ②	オ ③	オ ②	オ ②	オ ②	オ ②	オ ①
カ ⑤	カ ④	カ ⑤	カ ④	カ ①	カ ④	カ ①	カ ④
キ ②	キ ①	キ ①	キ ①	キ ③	キ ③	キ ③	キ ⑤
ク ①	ク ④	ク ③	ク ③	ク ⑤	ク ②	ク ⑥	ク ①